

## 9 「山・住」合同分科会 要旨

*San-En-Nanshin Summit 2017 in Minamishinsyu*

テーマ「ひとをひきつける“みち”づくり」

(敬称略)

コーディネーター	一般財団法人野外教育研究財団	理事長	羽場 睦美
報告者	元天龍村地域おこし協力隊		村澤 雄大
行政	浜松市	市長	鈴木 康友
行政	東栄町	町長	村上 孝治
行政	豊根村	村長	伊藤 実
行政	中川村	村長	曾我 逸郎
行政	平谷村	村長	小池 正充
行政	根羽村	村長	大久保 憲一
行政	泰阜村	村長	松島 貞治
行政	売木村	村長	清水 秀樹
行政	豊丘村	村長	下平 喜隆
経済	泰阜村商工会	会長	秦 和陽児
経済	宮田村商工会	会長	山田 益
住民	夢工房・左閑辺屋組合	事務局長	平松 雅隆
住民	愛知大学総合郷土研究所	研究員	平川 雄一

### ■はじめに

コーディネーター／一般財団法人野外教育研究財団  
羽場理事長



本日の奥野先生の基調講演は、大変すばらしく、感動いたしました。国がこんなふうに動いていくということを示していただいたと思います。しかし、この三遠南信地域においては、さらに10年も20年も先んじて、県境を越えた地域発信をしていたということを改めて確認できたのではないかと思います。

本日は、全体会でのトークセッションを踏まえ、この分科会では三遠南信地域連携ビジョンの「山」と「住」という分野で、議論を深めてまいりたいと思います。

まず、冒頭に、前年度の会議の内容と本日

の分科会で議論していただくテーマについて、説明をしていただきます。

次に、この分科会の基調報告としまして、実際に天龍村に住まわれております元地域おこし協力隊の村澤様から現在の状況報告をしていただき、議論に入ってまいります。

それでは、最初に事務局から昨年度の議論と本日のテーマについて、御説明をお願い申し上げます。

## 事務局

それでは、昨年度の議論のポイントについて、簡単に説明をさせていただきます。

この三遠南信サミットでは、三遠南信地域連携ビジョン基本方針に基づき、の分科会を設けてございます。そのうち、「山・住」合同分科会では、中山間地域の活性化と安全な暮らしについて、毎年、分科会で活発な議論をいただいているところです。

昨年度の「山・住」の分科会では、地方創生をテーマに御議論をいただきました。その結果、結論といたしまして4点、まとめられております。

一つ目としましては、基盤整備による物理的・時間的な距離の短縮により、中山間地域の生活環境を向上させるための諸施策を検討すること。

二つ目としましては、三遠南信地域、特に中山間地域の持つ魅力的な地域資源や生活での利点を県域内外に発信する情報発信体制を整備すること。

三つ目につきましては、県境を越える防災体制の強化などについて相互に連携すること。

最後の四つ目は、三遠南信地域ならではのライフスタイル等を最大限活用して、子育て支援や、安心・安全な暮らしのための持続可能な地域づくりに結びつけることが重要であること。

以上4点の結論をいただいております。

次に、本日御議論いただきたいテーマにつ

きまして説明いたします。

背景として、前回のサミットを2月に豊橋市で開催しましたが、この後、先ほど全体会での基調講演もございましたように、年度末、国土形成計画に基づく国の中部圏広域地方計画が策定されております。先ほど、隣室にもパネル展示がありましたが、この計画では、人口減少や巨大災害の対応と、コンパクト＋ネットワークといった点が主なポイントとされ、高密度な対流により中部圏の未来を開いていこうという内容でまとめられております。

また、この計画ですが、三遠南信地域の連携を項目の一つとして取り上げていただいております。具体的には、「広域連携の先進を行う三遠南信地域の連携」という形で、今後、三遠南信地域の広域連携の取組みに対し、中部圏はもとより全国的にも関心を払われているということでございます。

以上申し上げました認識のもと、今回の分科会では、「ひとをひきつける“みち”づくり」をテーマに設定しており、移住定住などを含めた皆様の取組の御紹介や、今後の課題や御提言等に関して活発に御議論いただければと思います。

## コーディネーター

本日のテーマですが、これを三つに分けて受けとめました。

一つ目は、人を引きつけるもの、魅力。これについてのトークセッションをさせていただきたいということでございます。

それから二つ目としては、効果的な取り組み、こういったものがテーマになって、皆様から御議論を賜りたいと思います。

それから三つ目ですが、本日の基調講演にも対流という言葉、あるいは交流という言葉が出ましたが、いわゆる連携、そして人と人が手をつないで取り組んでいくことの大切さについて話していくと理解をいたしましたので、そのような進め方をさせていただきます。

それでは、天龍村地域おこし協力隊、元隊員でございますが、村澤雄大様から報告を頂戴いたしたいと思っております。

## ■報告

### 元天龍村地域おこし協力隊 村澤氏

本日の議論のテーマに沿うかちょっと不安ですが、地域おこし協力隊時代の活動の報告と、現在について報告をさせていただきます。

私は天龍村の地域おこし協力隊なのですが、出身は飯田市です。ふと最近思い出したのは、15年ほど前、三遠南信中学生交流事業が始まった頃、僕は中学2年生でリーダー研修会に行っておりまして、浜松市に行っています。当時浜名湖の周りを自転車で周り、未来を考えるワークショップをしたことを、最近思い出しました。でも、これだけ長く続いているものに、自分が大人になって話す場を与えてもらえると思わなかったのが、大変緊張しております。

地域おこし協力隊の活動内容ですが、体験ツアーや農作業などいろいろやっています。いろいろやっているのですが、本日はやっていることを話すのではなくて、なぜこんなことをやっているかという目的をお伝えできれば十分かと思っています。

なぜ、こんなことをやっていたかといいますと、1人でも多く天龍村のファンをつくるためにやっていたんです。これは村外の人ではなくて、村内外を問わず天龍村のことを本気で考えてくれる人を増やすために、天龍村の魅力を伝える活動を様々な角度から自分で考えてやってみました。

当時地域おこし協力隊という名前で活動をしていたのですが、実際に活動していくと、地域の人に協力していただいていると感じることが多かったんです。そして、むしろ協力してもらえることがのほうが大切だったのではないかと、1年たって気づきました。

そこで、天龍村の地域おこし協力隊では、地域の人、天龍村に住んでいる人に協力していただけてありがたいという思いで、「地域おこし協力隊」から「天龍村ありが隊」に変えて、現在も活動をしています。

天龍村に中井侍という地区があります。この地区は、県内で一番おいしいお茶ができるお茶どころとなっています。天龍村ありが隊では、中井侍地区で2年ほど前から、「中井侍に侍はおるのじゃープロジェクト」といった活動をしております。

このプロジェクトは、主に「お茶摘みツアー」と「緑茶カフェのオープン」、「新パッケージ」を考えて販売という三つのことをやっています。村のことを知っていくうちに、中井侍地区のお茶の後継者問題が非常に大きな問題だということを知りまして、少しでも自分たちが問題解消に携われないかという思いでやりました。プロジェクトが終わって1年たって、雑誌の取材が入りまして、工場長さんに感想を聞ける機会がございました。僕たちにとっても初めて地域の方の感想を直接伺えるいい機会でした。自分たちの活動はきっと地区の方も喜んでくれているのだろうと思っていたのですが、地域の方の感想は「正直うっとうしかった」というのが本音だったそうです。中井侍のお茶は有名で売れており、地域おこし協力隊の君たちが出てこなくても売れているよというのが実際のところでした。ただし、「地域おこし協力隊が一生懸命やるので、地域の方がしょうがないから手伝う形になりました」との感想を聞いて、やはり協力していただいているというほうが大きかったです。

この活動が2年続きまして、昨年9月23日に、中井侍地区の人と一緒にお茶を持っていき、お茶の飲み比べや手もみ体験のできるイベントを銀座NAGANOでやらせていただきました。この日の売り上げは、地区の秋祭りの復活のための予算に充てました。昔、中井侍

地区の秋祭りがあったときは、春の茶摘みと秋の祭りの年2回、人が集まって盛り上がる機会があったそうです。中井侍地区では5年ほど前から、いろいろな関係で秋祭りができていませんでしたが、イベントと併せて地区の催しを一緒に実施することとできました。

地域おこし協力隊となった当初、自分はどうすれば天龍村で暮らしていけるのかなということばかり考えていました。しかしながら、3年間の活動を通じて自分の気持ちにも変化がありまして、山の中へ1時間入っていくと文化も風習も全然違う地域や天龍村自体が残っていくためにはどうすればいいのかということや、天龍村の人とともに今後も暮らしていくにはどうすればいいのか、天龍村全体のコミュニティを維持するために自分はどうすればいいのかということを考えるようになりました。

現在なのですが、何足かのわらじを履きかえて暮らしていきたいと思っています。地域おこし協力隊として赴任当初に言われることでもあり、私も最初はそう思っていました。3年間の活動期間で起業して、その地域で生活できるようにする、一つの生業で身を立てて生活していくのだと思っていたのですが、ちょっとリスクが高過ぎると思いました。

あと、村内をうろうろしていると、いろいろなところで若い人の力が欲しいという声を実際に上がります。しかしながら、その力が必要な期間は、通年ではないことが多いです。季節的な仕事など人手が不足していて、必要な場面で声がかかる場面が結構あります。その生業を自分でつかんでいくことで生活ができるのではないかなと今は考えていまして、実際にそれを実施しています。大金はなくても、村の中で生きていく力が見につくのではないかなと自分では考えています。自分の中では、それこそ安定した暮らしなのではないかと考えています。

実際には、生業としては、名ばかりですが、

シェアハウス兼ゲストハウスのオーナーとなっています。後は、天龍村から週に1回、お台場の大学まで行かせていただいています。後は、村の「なんでもアルバイト」といって、鹿のネット張りから介護のお手伝いまでやっています。ときには、犬の散歩という仕事もありました。

後は農作業ですね。本日午前中話があったと思いますが、天龍村坂部地区でヤツガシラというイモをつくっています。夏には、天竜川でのラフティングのガイドもやらせていただいております。

地域おこし協力隊の任期が終わったのは昨年7月で、これまで一応飢えることなく暮らせていけているので、そんな大金持ちではないですが、何とか暮らしているかと思っています。

また、地域おこし協力隊でやっていた活動も継続しています。現在は「ツメモガキ」と名前を変えて活動しています。ツメモガキは大和言葉でラストスパートという意味で、県内で一番限界集落と言われている天龍村にふさわしいということで、こういった名前をつけて、元地域おこし協力隊の女性と2人で活動をしております。

長野県の阿部知事にもお会いすることができまして、これまでの話をしたら、「県でもこういうことを考えているのだよ」という話をしていただきました。「頑張ってるね」と一言言ってもらっています。

以上になりますが、最後に動画を見ていただきたいと思います。

長野朝日放送主催の「ふるさと CM 大賞 NAGANO」という番組があります。年に1回、長野県内の市町村からふるさと自慢のCM作品を募集するのですが、天龍村は村全体で作品をつくって応募しようという試みをやっております。

この撮影当日は、この撮影をするためだけに203名の方に集まいただきました。203

名という人数はそれほど多くないと感じる方もいらっしゃると思います。しかしながら、天龍村において自ら電車に乗れる、自ら動く人のうち、203名という人数は相当高い割合になっております。このような活動ができるのは、本当に天龍村だけだと感じていまして、私はこれをきっかけにして、本当に天龍村で暮らしていきたいという思いが生まれた日でもありました。

### コーディネーター

ありがとうございました。

かつて、アメリカのニューディール政策には地方重視と若者雇用の制作がありました。また、英国のニューディール政策でも、若者の職業訓練と雇用と地方を組み合わせた政策がとられました。現在総務省が中心になって、これらと骨格が似た施策が実行されております。ヨーロッパも30年ほど前に、都市一極集中や日本の経済発展による影響その他によって、地域が廃墟化していった田舎に住む人が少なくなってしまいましたが、それが様々な施策を講じて、若者が田舎に住み始めて人口減に一定の歯止めがかかりました。浜松市の真ん中に5人、10人の人口が増えても全体数はびくともしませんが、例えば天龍村の中井侍地区に5人来てくれると人口動態が大きく変わるわけです。農山村漁村ではこうした若者に期待をしたいと強く感じました。



### ■意見交換

#### コーディネーター

それでは討議に入ってまいりたいと思います。

最初に、雰囲気をやわらかくしたいと思いますので、お伺いしたいのですが、前回サミットの風土分科会で浜松市の鈴木市長といろいろと議論をさせていただきました。そのときに、日本遺産をつくろうという話もありましたし、直虎の時代がついに来たということでした。

本当に今、浜松市周辺は井伊谷の一大事件を受けて、どのように皆さん受けとめ、また、活気が出ているのか、出ていないのか。先週、ドラマの中で、亀之丞が高森町の松源寺へ疎開しておりましたが、その後の様子をお聞かせいただいて、話をスタートさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

#### 浜松市 鈴木市長

本年の大河ドラマは、三遠南信地域が舞台ということで、最初私たちもこのドラマが決まったときに推進協議会をつくり、いろいろ準備してきたのです。ただ、去年は知名度の高い真田幸村なので、さて、今年はどうなるか。

ドラマがうまくいかないと波及効果がないと心配していました。しかし、おかげさまで皆さん御承知のとおり、おとわ役の新井美羽ちゃんの名演技もあり、ドラマも上々の滑り出しでございます。ドラマ館もおかげさまでオープンして1か月たたないうちに5万人を超える来場者数です。上田市の母袋市長とお話したときに、「大体、冬場はだめなのだ。スタートして、しばらくはあまり来ないぞ。大体3月や4月から、春先から盛り上がるぞ。」というお話でしたが、出足好調でして、これはぜひ地域の活性化につなげていかなければいけないと思っております。

つくづく今回の大河ドラマを見て感じた

のですが、亀之丞は今川氏から追い詰められて逃げていく際に、新城を通過して高森の地の松源寺へ行くわけです。まさに三遠南信地域の街道を通過して、ずっと疎開というか避難していくわけですが、昔からこの地域は、経済圏や文化圏として一体的な地域だということに改めて感じたところです。三遠南信地域内には、いろいろな形でゆかりの地があると思いますので、全体でこの大河ドラマを盛り上げられればと思います。

### コーディネーター

高森町長にお聞きしましたら、鈴木市長が松源寺に来てくださるそうです。人を引きつける何かがありまして、まさに交流がございまして、それも道が通っていないということで、南信州地域はJR飯田線で豊橋市と浜松市はつながっておりまして、またつながりが強くなっていくものと思います。

さあ、そういうことで、最初の議題は人を引きつける魅力、それがまた、山、あるいは住むことにどんなふうにつながっていくのか、様々な御意見があろうと思いますので、お聞きしてまいりたいと思います。

最初に根羽村の大久保村長にお伺いしたいと思います。

### 根羽村 大久保村長

報告の中で流れた天龍村のコマーシャル映像はまさにそういった映像でしたが、いつも私は自分たちの住む地域に誇りと自信を持って生き生きと生きて、それを子供たちにつなぐという生き方をどうしても続けていきたいと思うのです。

そんな中で、子どもが生きる矢作川の一番上流の地域は山林が92%ありますので、その森林資源を木材として使えるものは使いながら、木育部分で使いながら、さらには余剰の部分エネルギーとして環境に配慮した使い方などをしっかりとアピールして地域をつく

り、さらにそういったものを地域の中だけで取り組むことは難しいので、例えば、矢作川の流域連携、あるいは三遠南信の圏域連携の中で木材を使い切っていく仕組みをつくっていくと、山の我々もできますし、それぞれの根羽杉や天竜杉など、様々な地域材があります。それを流域の中で使う仕組みをつくるのが、とても大切ではないかと思います。それを結びつけるのが川であり、道であり、最終的にはこういった人と人とのつながりになると思います。

あらためて、先ほど村澤さんが頑張ってきた取り組みが地域づくりの原点になるし、例えば、若い人が田舎で働こうとすると一つの仕事では難しいので、ハイブリット的な働き方ができると非常に魅力的な地域になると思います。

### コーディネーター

根羽杉のブランド化の状況は、いかがですか。

### 根羽村 大久保村長

おかげさまで進んでおります。後は、特に地域材に限らずに、木を使ってもらうことによって山の管理ができて、働く仕組みができます。地域の木を使うことによって、地域が生きられるので、そういった仕組みを全国的につくっていただいて、特に都市部でたくさん木を使っていただくといった取り組みをぜひお願いしたいと思います。

### コーディネーター

ありがとうございました。

続きまして、中川村の曾我村長、お願いします。

### 中川村 曾我村長

人を引きつける魅力づくりの効果的な取り組みということですが、中川村にはたくさ

ん魅力はあるのですが、それをどんなふうに村外の方に提供すれば喜んでもらえるのかという点が、まだまだ我々自身が理解できていないと思います。わかっていないのに宣伝ばかりして、来てもらっても満足してもらえないことになるかと思うので、そこをどうするかということで、一つ具体的なものは、下伊那地域には南信州観光公社という先進的な取り組みをやっていらっしゃって、その中に、中川村も加えていただき、関西方面からの修学旅行生の受け入れを何校かやりました。それは迎え入れることが目的ではなくて、迎え入れることによって、「ああ、こういうことをすれば喜んでもらえる」と、「私たちも楽しいね」という形の、どちらかという、村内を変えていくために取り組んでみたところ、それはすごく効果が上がってありがたいと思っています。

あと、山の奥のキャンプ場という山での体験ができるところを、それを移住してきた方の仲間が運営をするようになったら、大変たくさんの方が来てくれて、やりとりも活発にやってきたということがあって、気持ちの通じる人たちが運営する体制を、若い人たちの活躍の場をどうつくっていくのかということも、すごく大事だと思っています。

後は、具体的な取り組みなのですが、地方創生絡みで言うと、今地域力がすごく落ちているので、地域に溶け込んで暮らしていただける移住者を迎え入れるための住宅、そして、そこに入ってくれる人を地域の人と一緒に募集をして、一緒に面接をして家族を迎え入れようという取り組みをしています。それから、お家を1軒まるごと寄附していただいたところがあるので、本当に模索の段階でお話できる状態ではないのですが、そこをシェアオフィスのような形で使う方法を検討しています。

## コーディネーター

お聞きしていて、ポイントは熟成させるということだという気がいたしました。

## 中川村 曾我村長

迎え入れる際に、期待されていることとこちら側から提供するものがつながらずにミスマッチというか、ちゃんと期待に応えられていない。こちらから提供できるものを、来てもらえるお客さんもわからないといけなくて、そういったところをこれからしっかりやらなくてはいけないと思っています。

## コーディネーター

ありがとうございます。続きまして売木村の清水村長、お願いいたします。

## 売木村 清水村長

私は村長になって5年目に入りましたが、何とか村を知ってもらいたい、都市と農村の交流を各種いろいろなイベントを通して、かかわっていきたく、「うるぎ600走る村」をキャッチフレーズに、標高が高いという村の特徴を生かし、合宿誘致に取り組みました。最初に始めた当時は175人だったのが、去年は1,700人のランナーが村へ来て合宿するようになってきました。浜松市や名古屋市からも約2時間あれば来られるという利点を生かして、村に来ていただくことから始めました。

また、いろいろなイベントを通じて村に人を呼び込むために、キャンプ場を利用した音楽祭など始めました。

浜松市にあるラジオ局のFMHarO！（浜松エフエム放送株式会社）やK-mix（静岡エフエム放送株式会社）に出演して、浜松へよく行って、広報をさせていただいております。

三遠南信自動車道が鳳来峡インターチェンジまで開通したことで、村へ来ていただくと、「環境がよくて、こんな近くに、いいところがあったのか」ということから定住につな

がっていったりして、いろいろやっております。また「田舎暮らしすすめ塾」ということもやっております、その活動を通じて移住してきた皆さん、そして地域おこし協力隊としてやって来た皆さんが結婚し、その夫婦から昨年2人の赤ちゃんが生まれたという効果もあらわれてきており、やはり自然環境などの現在あるものをどう生かしていくか、これから大事ではないかと思っております。

### コーディネーター

ありがとうございます。実は私ども山村留学を古くから開発して振興している財団なのですが、売木村の状況はいかがですか。

### 売木村 清水村長

山村留学を始めて、本年で34年になります。昔は子供たちが田舎へ行きたいという思いがあったようですが、今は親御さんが山村留学を通して子供を育てたいと思っております。山村留学でやってきた子供はすごく成長します。そういういい取組みだと思っております。

### コーディネーター

また後ほど泰阜村長にもお聞きしたいと思いますが、山村留学に来た子ども、あるいは家族が移り住んでくださるといったような効果も出ておられますか。

### 売木村 清水村長

残念ながら、売木村の場合、山村留学の子供が戻ってきた例は1人もいないのが現状です。

### コーディネーター

わかりました。

それでは豊丘村の下平村長、よろしく願いいたします。

### 豊丘村 下平村長

この地域にリニア中央新幹線が開通する

時代を迎える中で、この地域が変わっていくということは目に見えています。特に都市部の20代、30代、40代の皆さんに調査すると、雇用さえあれば田舎で暮らし、子育てをしたいという方が四十何%いらっしゃるそうです。この地域を見つめるためには、地域おこし協力隊のような切り口の見方、目線も大事なのですが、この地域がいかに子育てをしやすいかという点が重要ではないかと思えます。また、長野県では森の保育園構想などに取り組んでいます。都市部の人たちも、自然の中での教育について非常に考えていて、偏差値の高い保育園だけに入れるのが教育ではなくて、子供を人間らしく育てていきたいという非常に要望があるわけです。

現実問題とすると、この「山・住」の「住」に関連し、この地域で住むということは、雇用が必要だということです。いかに雇用をつくり出せるかによって、地域に人が増えてくるだろうと私は思っています。それこそワーク・ライフ・バランス、先ほどもおっしゃっていましたが、それぞれ生業がありまして、様々な要望をいかに定住につなげるかという中では、私どもは例えば、現在コワーキングスペースの開設やワーキングホリデーの受入れなどいろいろやっています。これは今のところ、当村が都市部からあまりに遠いので、農業の方だけを呼んでいるということなのですが、そうではなくて、いろいろな人たちがここへ住み始めれば、例えば、観光や介護などに関する職場をいかに作り出しながら、かつ、地域独自の子育て支援、例えば豊丘村では保育園同時入所の2人目から無料するなどして子育てを応援しています。これの財源は、ふるさと納税などを使ったりもしているのですが、都市部に対して宣伝することによって、伊那谷へ行って子供を育てよう、行政としては雇用と子育てをしっかりと充実する中で、そして、これからの三遠南信自動車道やリニア中央新幹線が整備される時代に向け



て今から足腰をしっかりすることが必要なの  
だろうと思っています。

### コーディネーター

お聞きしていてインスピレーションを受  
けましたのは、今の若者たちは、一つの仕事  
ではなくて、上手な仕事の集め方をして、そ  
して生き方と豊かな自然の中で、ある程度の  
雇用をみずからつくり出して生活をされてい  
るということです。

実は、中山間地域の暮らし方というのは、  
もともと土木作業をしたり、田植えをしたり、  
稲を刈ったり、それから柿がなったら柿を出  
荷したりする。こういう多様な生業を上手に  
つなぎ合わせて、生きてきたのではないか、  
それを今の若者たちが仕上げしてくれている  
ような状況かと感じました。

### 豊丘村 下平村長

それだけではなくて、それはそれで、とて  
も素敵で、都市部のいわゆる大量生産、大量  
消費のライフスタイルに対して、合わないか  
らということ、そういう暮らし方もこの地  
域ではできますし、また見てのとおり足りな  
いところもいっぱいありますし、企業もあり  
ます。その中では、そういう子たちだけに限  
定するのではなくて、普通の仕事をしたい人、  
例えば、僕らも知っていますが、うちの地域  
でも、例えば、農業だけでは暮らせないから  
と、実は地元の人だって、企業に勤務しなが  
ら、休日に農作業を手伝うことは非常にある  
わけです。だから、そういう子たちの場合は、  
都市部から田舎へ来たがっているというのも、  
これは真実だろうと思います。今、若い世代  
が、川崎市は年間1万5,000人、世田谷区では1  
万人増えているのです。しかしながら、彼ら  
はそこに行って、満足な生活をしているわけ  
ではないので、田舎のよさというものは大事  
ではないかと思っています。

### コーディネーター

最後に泰阜村の泰商工会長からお聞きし  
たいと思います。

### 泰阜村商工会 秦会長

泰阜村では地域おこし協力隊としてやっ  
て来て、その後住み着いた方がおります。事  
業を始めて、皆さん御存知かと思いますが、  
「けもかわプロジェクト」といって、女性な  
のですが、獣をさばいて皮で名刺入れなどを  
つくっております。また、豆腐、こんにやく  
の製造を始めてくれている隊員もいます。商  
工会にも紹介してくれておりますので、商工  
会としてもいろいろ支援をさせていただいて  
いるところでございます。

おかげさまで泰阜村は住宅を建てても、ほ  
とんどがいっぱいになってくれるかなと思っ  
ております。空き家対策も考えていかなくて  
はならないと思っておりますが、本当に地域  
おこし協力隊の皆さんが住んでくれるとい  
うことで、うれしいということと、もう一つは、  
泰阜村へ移住してきて何年かして、その地域  
の区長をやられる方もおります。そんな方も  
おりますので、実際に自分がずっと泰阜村に  
いて、村のどこがいいのかわからないけれど  
も、村の良さを地域外から来た人たちにいろ  
いろ聞いてみなければいけないのかなと、そ  
んな気がしております。

### コーディネーター

松島村長、先ほど、山村留学の話をちょっ  
と、売木村のほうとリンクさせて宿題をお願  
いしてございましたが、いかがでしょうか。

### 泰阜村 松島村長

羽場さんが始められて、30年経過して、何  
人か泰阜村に移住してくるという方はおられ  
ますが、やはりもっと長い時間がかかると思  
っています。ただ、それは投資をして、それ  
が返ってくるのに50年とか60年かかるという

話でいいのかなと思っております。

### コーディネーター

サケは短命ですが、人間は長生きですので、本流をさかのぼってくるには、まだまだ時間がかかるようです。実は、泰阜のダイダラボッチ元参加者や浪合の通年合宿所の元ボランティアが、今、それぞれの村の協力隊員等として「帰村」しているといううれしい成果も上がっております。

本当は雇用の問題等に関し都市部からの御助言をいただきたいところですが、2番目の議論に入ってまいりたいと思います。

2番目は、いろいろな取り組みが一体どういった効果を生んだのか、あるいはどんなインパクトがあったのかについて皆さんに御意見を伺いたいと思います。

それでは、豊根村の伊藤村長、お願いします。

### 豊根村 伊藤村長

私は、やはりないもの探しではなく、地域のある資源、地域にあるものをどこまで生かし切れるかということ、それから自分たちの地域をどういったフィールドとして使ってもらえるかということに力点を置いて、村づくりをやってきた一人です。

私どもは、大きくは移住促進と観光交流を目指して村づくりをやっているわけですが、特に定住、移住するのにいろいろなことをやってきました。

まず移住促進ですが、数年前にこれまでの住宅政策では定住につながらないということに気がつきまして、譲渡型の定住促進住宅と、地域住宅というものを建てました。譲渡型定住促進住宅は、30年すると、あなたに譲渡してしまうという住宅なのです。そのことによって1年で25名が移住していただいて、子供を17名ほど連れてきていただきました。そういった中で、もっと地域に根づいた住宅を建て

させていただいて、これからは本当に地域の中で一緒になって地域の活動ができる体制の住宅施策でないと、定住につながらないだろうというところを重きにおいて地域住宅を進めております。

その中で、移住してきた人たちのケアなのですが、やはり私どもの大事なことは、移住してもらうために精力を尽くすのではなくて、移住してきた人たちと先住している住民とが同じ目線で地域活動ができるように支援することが大事だと思っております。

もう一つ、私どもは雇用のために観光と交流を進めているのですが、特にここ数年は、三遠南信自動車道や新東名高速道路が開通したことで、平成26年度までは年間60万人のお客さんに来ていただいたのですが、これを100万人にしようとアクションプランを構築して、いろいろなことをやっております。

そんな取り組みの結果、昨年1年間の統計で72万人のお客さんが豊根に来ていただきました。特にいろいろなことをやった中で、三遠南信地域は現在35の市町村がありますが、茶臼山高原は、長野県と愛知県に接しておりますので、35の市町村のうち22の市町村の方に参加いただき、三遠南信食の祭典を実施し、1日1万5,000人ほどに来ていただきました。多くの方に来ていただいた理由の一つは、三遠南信自動車道が開通したことの効果が出てきているのだと思っております。

### コーディネーター

ありがとうございました。それでは、平谷村の小池村長、お願いいたします。

### 平谷村 小池村長

平谷村は、非常に標高の高い村ということで、自然条件を生かした観光開発を先輩たちが進めてこられていました。

冬はスキー、夏はゴルフ、また、温泉開発によって日帰り温泉、また宿泊温泉等も手が

けてやっているとところがございます。

平谷村は標高が高いということで、秋の紅葉が非常に素晴らしいものがあります。年間にしますと30万人以上のお客さんが見えるということでございます。昨年から合宿誘致などいろいろやってきたわけでございますが、その中で日本相撲協会の峰崎部屋が名古屋場所の後、2週間ほどの夏季合宿を行っていただきました。今後5年以上は続けていきたいということで取り組んでいるのが現状であります。

こういう観光開発を中心として、農業の振興にも力を入れてきております。自然条件を生かした農作物で、特にトウモロコシ、トマト等の生産に力を入れ、非常に喜ばれているのが現状でございます。また、近年ではトウモロコシを利用したコーンスープ等も非常に好評で販売をされているところがございます。

また、一昨年からは休耕田を利用して酒米をつくりまして、平谷村の米でつくった甘酒、清酒を販売したところ、非常にこれが好評で話題を呼んで、紅葉時に使われているのが現状でございます。

そんなことで、平谷村は農業では食っていけないということですので、林業の再生が一番いいかなと思うのですが、あまり見込みもない中で、今観光開発を手がけて頑張っているのが現状でございます。

### コーディネーター

ちょっとお尋ねしたいのですが、平谷村の人口は全国でも大変少ないことで有名でございますが、山に住むという点から、人口対策をどんなふうにお考えになっているのか、現状はいかがでしょうか。

### 平谷村 小池村長

Iターン、Uターンを非常に宣伝し、進めている中でございます。そういう中での問い合わせの数は結構ございますが、いろいろな条件を合わせていくと、最終的には1件か2件の

入村というぐらいで、なかなか人口が増えることはありませんが、人口を増やすより、現在村に住んでいる人がいかに長くとどまってくれるかということに力を入れて取り組んでおります。

### コーディネーター

ありがとうございました。

それでは、宮田村商工会の山田会長、お願いいたします。

### 宮田村商工会 山田会長

商工会長と宮田村の観光協会の会長も務めております。宮田村の人口は9,300人ほどですが、北隣の伊那市にはオリンパス株式会社長野事業場、南側の駒ヶ根市と宮田村には日本発条株式会社駒ヶ根工場と伊那工場、それから伊那市で起業されたルビコン株式会社とKOA株式会社などの会社があり、それらの関係から宮田村も非常に工業が盛んなところであり、またベッドタウン的な要素を持つ村でもあります。

宮田村の人口政策等を一部紹介しますと、村内の建築事業者により新築した場合の利子補給について、借入金残高の0.5%を3年間にわたり毎年10万を限度とした補助や、宮田村の生活を体験し、村を知っていただくために、1泊1,000円で最大30日間、移住体験住宅に泊まっていただくことを進めております。

小学生は、1学年90人から100名くらいおりまして、しかも全然減りません。若い夫婦が大変増えています。また、農業ではNHKで取り上げられましたが、遊休農地がない村です。それは、昭和56年に誕生した「宮田方式」という独自の土地管理制度を採用しているからです。「土地は自分のものだが、土はみんなで作って使う」という理念のもとに村内の遊休農地でやまぶどうを栽培し、ワインづくりを行い、こちらは通算14年目になりますが、変おいしくなりました。また、リンゴはオー

ナー制度を導入し、愛知県のほか県外からたくさんのお客様に来ていただいています。これも宮田方式というものでして、空いている農地は全て地主に関係なく提供していただきまして、新たに農業に参入しようとする方々と土地提供者との間に村が介在し、トラブルの発生を少なくし、農業をやりたい人が参入しやすくするものです。また、本坊酒造株式会社の工場では、ウイスキーや地ビール、山ぶどうワインづくりをしております。

観光につきましては、今週、韓国から中学の校長先生たち10名がお見えになりまして、宮田村は中・高校生の修学旅行を引き受ける計画をしております。宮田村には木曾駒ヶ岳がありまして、標高が2,956メートルです。韓国には2,000メートル以下の山しかないということで、韓国から来た方には大変好評です。また、木曾駒ヶ岳は、標高が高いですが、ロープウェイが年中無休で営業しており、冬の時期も自然を楽しんでいただけます。また、アサギマダラの里づくり、秋には赤そば等で観光誘客をしているところですが、いずれにいたしましても、商・工・農のバランスのとれた村だと考えており、これからも発展していけたらと思っています。

### コーディネーター

いろいろとやろうと考えておりますでしょうし、商工会も頑張っておられるかと思いますが、具体的に右肩上がりになっているのか、なかなか苦戦しているのか、取り組みの効果はいかがでしょうか。

### 宮田村商工会 山田会長

一番誇れるのは商工会の青年部です。二世がすごくアイデアを出して新しいものを企画しています。例えば、県より先に挨拶運動をやろうということで、青年部員やPTA、村役場の若手職員等が小中学校へ行って、みんなで校門に並び挨拶をするなど、村のPRビデオで

県の大賞をいただきましたが、中学生は帰りに校門で一礼する習慣があり、これは宮田村のDNAというか、感謝の気持ちを大切にすることによってやっています。私は名古屋出身の人間ですが、いろいろな場面で一体感があり、人がいいと感じております。

### コーディネーター

ありがとうございます。

それでは最後に夢工房・左閑辺屋組合の事務局長の平松様、お願いいたします。

### 夢工房・左閑辺屋組合 平松事務局長

天龍村の最南端の坂部は、すぐ目の前に愛知県と静岡県の県境が見える長野県の県境にあります。その地域の中で、坂部の冬祭りがあるのですが、これは600年ぐらい前に始まったと言われていています。山間地ですので、人々はこの祭りを根っこの部分に置いて暮らしてきました。人々の一番生命力が衰えるといえますか、冬至の時期に生命の復活を祈って行われてきたと言われていています。この冬祭り、現在は1月4日になったのですが、そんな中で祭りと食をテーマにして、我々は南信州交流の輪という団体で、先ほど根羽村の大久保村長は森林、材木を活用されていたのですが、我々は竹を器にできないかということで、孟宗竹、青竹、ハチク、これを10月か11月ごろ山から切り出し、切り分け、磨いてから煮沸、水蒸気で消毒し、天日干しします。こういう形で竹器をつくり、祭り街道フェアということで、去年は銀座NAGANOへ行って来ました。徳利やお猪口をつくって天然由来の器で料理を味わっていただきました。関西では祭り会場テントをつくって、阿南町にあるかじかの湯、そして道の駅新野千石平において70名ぐらいのお客さんに竹の器で料理を出しました。いずれの場でも非常に喜ばれております。

坂部地区には、夢工房・左閑辺屋という昔の小学校が廃校になった跡地にできた地区活

性化施設があります。先ほど事例報告してくれた村澤さんほか地域おこし協力隊の彼らが先頭に立ってイベントを企画し、そこで若い人たちを呼んで、仕事も頼んで、そういうことで非常ににぎやかにやっています。

私が感じているのは、最近若い人たちが祭りや自然にすごく興味を持ってくれるようになったということです。1月4日の坂部の冬祭りでは、施設を無料開放し、泊まっていたでいます。

もう一つ、我々がやらなければいけないことは、そういう伝統文化をどのようにつなげていくかが問題であると思っています。

### コーディネーター

ありがとうございました。

やはりあるものをどのように生かしていくかということが、世界にもつながっていくということを改めて感じます。

それでは、連携、あるいは交流、そういったものを通じて、山、住の環境を整えていくことについて、皆様の御意見をお伺いさせていただきたいと思います。

最初に、泰阜村の松島村長にお願いしたいと思います。

### 泰阜村 松島村長

実は、10年ぐらい前に、三遠南信サミットを含む三遠南信というあり方も漂流したと思うのです。ただ、10年ほど前から、浜松市で鈴木市長が誕生し、新たに広域連携が必要だと言われ、方向がはっきりしたと思っています。

私は飯田下伊那の猟友会の会長なのですが、鹿もイノシシも猿も、県境の影響を受けることなく移動するものです。しかし、有害鳥獣の駆除の分野では、長野県から狩猟免許を受けるのだけど、県境を越えたら、また違う県の許可を受けなければいけないのです。それは天皇陛下の行幸啓のときもそうで

あったように、ものすごく強力なのです。そういった経験をしながら、私も村の利益をずっと考えなければいけないということで、移住定住も全部村単独で考えなければいけないのですが、高齢化などが進んだ時代になると、対外的には南信州地域や、さらには三遠南信地域という単位で取り組まないと、泰阜村だけでは移住定住の促進もできない時代になっています。これからはまさに広域連携の時代に入り、三遠南信という切り口でPRできたときに、その中に長野県といたら泰阜村があったという時代になったのかと思っております。鈴木市長が広域連合という三遠南信地域のあり方の提案をされているのですが、私はたまたま狩猟だけの例を出しましたが、いかに県境がいろいろなものを阻害しているかを感じるようになりました。

### コーディネーター

鈴木市長も先ほど「県の役割を考える」と、何かそれを示唆するようなお言葉があったかと思えます。

### 浜松市 鈴木市長

後で話そうと思ったのですが、私も県境の持つ意味が徐々になくなっているということを感じます。ぜひ行政の境を越えてできることを、この三遠南信の枠の中で追求をしていきたいと思っております。

### 泰阜村 松島村長

政令指定都市の浜松市が人口16万人の南信州地域のところと対等に考えていることが、市長を褒めるというか、おだてるわけではないですが、そのことは本当にすごいことだと思うのです。

### 浜松市 鈴木市長

浜松市は12市町村が一緒になったため、面積は伊豆半島より広いのです。旧浜松市域は

人口60万人で、面積がとても狭かったのですが、一番小さな人口1,000人の龍山村も一緒になりました。つまり、現在の浜松市となった旧自治体のほとんどが、皆さんの自治体と同じような自治体だったし、同じようなエリアなのです。だから人口80万人の目線ではなくて、むしろそういう小さな自治体の集合体だと思うのです。たまたま、その地域が広域連携の前に合併し、一つになってしまいましたが、そういう地域の固まりです。地域でやっていく中で、まさに三遠南信の枠組みで、一層広げていくと、もっといろいろな効果が発揮できるのではないかなと思っています。

#### **コーディネーター**

ありがとうございました。

それでは引き続き東栄町の村上町長、お願い申し上げます。

#### **東栄町 村上町長**

広域連携の取り組むべき課題ですが、私どもの町も実は三遠南信自動車道がつながりまして、13世帯41人が入ってきまして、18人ぐらいの義務教育以下の子供を連れてきたわけです。一方で、高齢化率が高いので、社会増減はプラスマイナスゼロという状況です。こういう状況の中で、私どもの地域の中で働く場の確保は非常に難しい問題ですが、道路がつながりまして、道路の整備がやはり最優先だと思っています。

そうなれば、勤務する地域も広がりますし、子育ては三遠南信地域の中でそういう状況をつくり上げていきたいと思っています。

やはり愛知県と長野県、静岡県との県境にありますと、何が一番課題かといいますと、情報の格差、いわゆる高度情報がとれないということです。これがやはり県境にあるがゆえに、できない状況です。したがって、私ども北設楽郡3町村で情報基盤を整備しておりますが、それでもまだ高度情報がとれない状況

にあります。そういった中、情報の連携が本当にこの地域でできれば、さらに静岡県西部の情報、そして東三河の情報、そして南信州の情報、三遠南信地域全体が見えるような情報が、このエリアの中でできれば、こんなすばらしいことはないと思っています。

一つ、東三河では、私どもはエフエム豊橋を使ってイベント情報を流させていただいております。これも非常にいい取り組みですので、ぜひ南信州、それから遠州の、例えばFMを使わせていただいてそこで流させていただくといった連携が三遠南信地域の中でできればいいかと思っています。

#### **コーディネーター**

それでは、愛知大学の総合郷土研究所の平川先生から、御報告等を頂戴したいと思います。

#### **愛知大学総合郷土研究所 平川研究員**

本題に入る前に、本分科会で発言する平松さんと私は、三遠南信住民ネットワーク協議会という組織の会員で、住民団体という立場で参加をしています。サミットの本番前の午前中に10年ほど前から三遠南信地域の交流や連携などを目指した活動団体が集まり、意見交換などする場として住民セッションを開催しています。昨年度からは、三遠南信サミットの各分科会のテーマと関連付けて、分科会での発言内容に関する意見を発表し議論する場としています。

住民団体からは四つの分科会に2人ずつ計8人が出席します。その8名が分科会で発言予定の意見や考えを述べ、それに対して、住民セッションに参加されているみなさんからつけ加えたい意見や考えなどを聞き、とりまとめを行い、分科会に臨んでいます。

そういった中で、「山・住」分科会で三遠南信住民ネットワーク協議会の活動の一つを紹介させていただきます。

三遠南信住民ネットワーク協議会は2012年6月に立ち上げました。翌年から本格的に自主事業を企画し活動しています。その中で2013年度から「三遠南信地域の地域資源の活用方法研修会(研修交流事業)」を始めました。三遠南信住民ネットワーク協議会に参画している会員(団体)が「どんな地域でどんな活動をしているのか」ということなど実際に体験しながら研修と交流する事業内容になります。団体の存在は知っていても、実際にどんな活動に取り組んでいるのかわからないことが多いのです。

特に南信州、奥三河、北遠などの中山間地域を中心に活動する会員が多いため、豊橋市や浜松市などの下流域に活動の拠点がある各団体のメンバーは、中山間地域に地域で活動されている団体や地域の実情がどういったものなのかをよく知らないで、実際に現場を見てもらうことが狙いでもあります。

実施回数は年に3回、東三河、遠州、南信州を1か所ずつ、1団体ずつ回っています。研修交流事業の本番では、外部の者から見た地域資源や地域資源の掘り起こしで見過ごされていたものかどうか、当該団体の皆さんと巡検しながら確認していきます。その後、地元の食材を使った料理で昼食交流会を開き、そのまま意見交換会となります。その中で地域資源の確認や新しい発見や再発見、今後何か連携をして、協働の活動ができないか、訪問地域のためになることができないかなどを議論して会員同士でそれぞれの活動内容を理解していきます。しかし、事業としてはまだまだ模索している段階です。

そうはいいまして、その事業を通じて生まれた事例の一つとして、「三遠南信祭り街道いざないマップ【遠州・奥三河編】」の制作の取組みがあります。本日は、現在作成中のドラフト版を発言者の方々に見てもらおうと持ってきました。三遠南信地域にたくさん祭り(伝統芸能)が分布していることやどんな祭

りがあるのかを三遠南信地域の見どころなどと一緒に、地図上に示して紹介する内容になっています。これは国土交通省浜松河川国道事務所の委託事業として3月までに完成、発行する予定で主な道の駅に設置する計画になっています。

なお、本事業は、浜松河川国道事務所管轄内ですので、本年度は遠州を中心にマップづくりとなりました。次年度以降は東三河地域あるいは南信州地域にスポットを当てて、祭り街道マップを製作できればと思っています。

## コーディネーター

ありがとうございました。

それでは、浜松市の鈴木市長に全体のまとめを含めて、お話を頂戴したいと思います。

## 浜松市 鈴木市長

本日は皆さんの御発言を聞き、それぞれ皆さん本当に工夫しながら頑張って取り組みをされているということを痛感いたしました。

浜松市も、先ほど言ったように合併いたしました。広大な中山間地域を抱えるようになりました。例えば、林業の振興や中山間地域との交流の促進など、おそらく皆さんと同じ課題を抱えて取り組んでいると思います。観光のほか、林業も別に行政の境は関係ないと考えます。私どもはFSCという国際認証を取得して天竜材のブランド化に取り組んでおりますが、山は一体としてあるわけですから、例えば、林業の振興や観光振興など、地域が一体となり、面として売り出していくと、より強力にアピールできるのではないかと改めて感じました。

あともう一つ、ぜひこれからITやネット、SNSなどを活用して情報発信をしてはどうかと思います。実験的に三遠南信地域で一つの仮想アンテナショップをインターネット上につくりまして、三遠南信地域の特産品のPRなどを実験的に始めていますが、うまくインタ

ーネットを活用してこの地域をPRできるのではないかと思いました。

もう一つ、多種多様な成功事例、うまくいっている各地の取り組みをぜひ横展開をしていくといいのではないかと思いました。先ほど、中川村の村長から、南信州観光公社の取り組みが非常にうまくいっていて、それを広げていただいているという話もございました。こうした全国的な成功モデルとして有名になっている取り組みを、ぜひエリアを広げてはいかがでしょうか。それだけマーケットも広がるということですから、いずれは三遠南信観光公社という名前にしてもらっていただいてもいいぐらいです。いろいろな成功事例を横展開していくことも大事ではないかということです。

#### コーディネーター

1点お聞きしたいのですが、特に災害面も大変に心配されておりました。実際に協力が県や市などでもあろうかと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

#### 浜松市 鈴木市長

私どもは政令指定都市になってから、消防備品というものを買わされたのですが、「どうしてそんなものを買わなければいけないのだ」と聞くと、「政令指定都市になったら買うのです。」と言うのです。静岡市も消防ヘリを導入しました。すると、静岡県には、今まで静岡市と浜松市をカバーしていた県の防災ヘリとともに、両政令指定都市が導入した分も増えてしまうので、実にもったいない。そこで、もちろん県内の連携もしますが、三遠南信地域の市町村と協定を結び、浜松市の消防ヘリが県境を越えて出動できるようにしております。

#### コーディネーター

ありがとうございました。大変つたない司

会進行でございましたが、皆様の大変熱意ある御議論に支えられまして、延長後の設定時間に何とか滑り込むことができました。

おおむね三つにまとめて報告したいと思います。

一つ目は、人口減少社会にあって、持続可能な地域づくりを進めていくには、あるものを大切にして、そして地域の持つ様々な魅力を引き出し、資源を十分に活用していくことが大事なのだということを、様々な自治体、あるいは商工会の皆様の活動から改めて確認しあったところです。

二つ目としまして、こうした資源を活用しながら働いたり、本日は天龍村の村澤様からの報告にもございましたが、楽しんで学んだり、協力したりして、情報発信することが大事であるという点です。浜松市長からは、ネットやICTの活用等も含めたことを考えているとの御発言もありました。こういった連携を拡大していくことで、それを定住に結びつけていくということにまとめられるかと存じます。

三つ目ですが、それは安心・安全をめざし連携によって乗り越えていくということでした。南海トラフ地震や巨大災害について、県境を越えた三遠南信地域全体で連携し、対策を強化していくということで力強く締めくくることができたと感じるところでございます。報告会には、以上のように報告させていただきたいと存じます。

改めて皆様の御協力に感謝申し上げます、以上で終了とさせていただきます。